

# みんなの環境

第34号 2013年4月20日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

[http://www.geocities.jp/atsugi\\_kankyo/](http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/)

## 平成24年度 かながわ地球環境賞・奨励賞を受賞



神奈川県では地球環境保全に向けた実践的な活動を行い他の模範となる団体等に贈る「かながわ地球環境賞」を平成5年度から設けています。

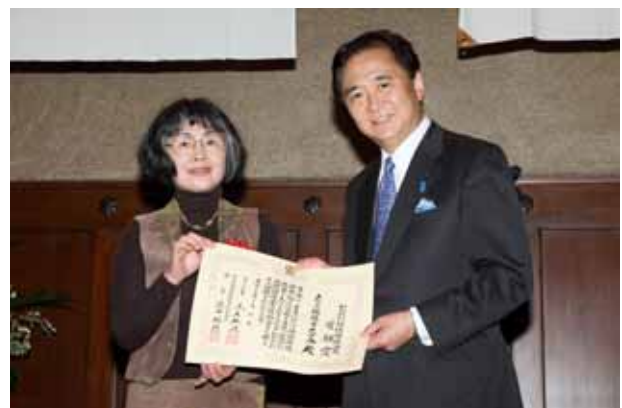
対象は地球環境保全に向けた活動を概ね5年以上にわたって継続しかつ将来に

わたり継続する見込みのあるもので他の模範となるものということになっています。あつぎ環境市民の会では厚木市からの推薦もあって平成24年度のかながわ地球環境賞・奨励賞を受賞しました。

2月4日に神奈川県庁で行われた授賞式には、代表、副代表をはじめ7名の会員が出席し黒岩知事から受賞団体に表彰状が授与されました。神奈川地球環境賞には表彰以外にこれといった副賞はありません。

しかし、これまで続けてきたことが認められた結果であるということを考えると、これが今までの活動に対する贈り物であり活動を持続させる糧となるものとして、これまで支えてくださった全ての方々に感謝とエールを送りたいと思います。

(事務局・鷺谷雅敏)



黒岩知事とともに狩野光子代表

(写真：神奈川県提供)

## 会員の願いが結実 小出講演会



### 支援のみなさまに感謝

井上 允\*

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を契機に、あつぎ環境市民の会では、市民一人ひとりが原子力発電について考える上映会や講演会を企画してきました。

昨年3月には中国電力・上関（かみのせき）原発建設計画に反対する祝島住民の生活を追った「ミツバチの羽音と地球の回転」、9月には1986年に起きたチェルノブイリ原発事故から16年後の被爆被害の実態に迫った「チェルノブイリ・ハート」、そして本年

2月23日、40年にわたり原発の危険性を訴え続けてきた京都大学・原子炉実験所助教の小出裕章先生を招いての講演会を開催しました。

福島の原発事故以来、小出先生への講演依頼は数を増し、先生は対応に大変苦労され、昨年からは熱意あふれる依頼にのみ応えることにされたそうです。小出先生には私たちの会を選んでいただきとてもありがたく感謝しております。

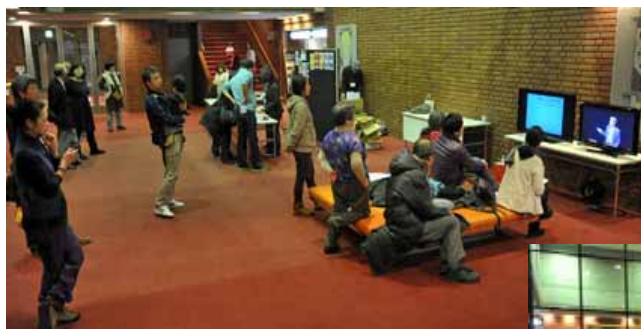
講演お引き受けの報をいただいてから、準備会を立ち上げました。後援や賛同をお願いすることから、PRの方法、入場券の販売の方法まで何度も議論しながら約5か月、実行委員のみんなが必死に頑張りました。子育て中の若い方々にも是非聴いてほしいと、託児室開設だけでなく、カメラ2台の映像をロビーモニターに映し出し、さまざまな都合で会場に来ることができない方のためにインターネット・ライブ中継も行うなど新しい試みも加えて、皆さんをお迎えしました。

厚木市民はもとより県内外からも多くの方々が厚木市文化会館大ホールを埋め、2時間30分も小出先生のお話に聴き入る様をみて、準備にかかわったスタッフの想いは、参加された皆さんにもきっと伝わり満足していただけたものと思っております。

講演会を支援してくださった報道関係各社、JAあつぎ、多くの生活協同組合の方々、そしてなにより、寒いなかこの催しに参加してくださった皆さんに厚くお礼申し上げます。

スリーマイル、チェルノブイリ、そしてフクシマで原発の脆弱さと危険性は明らかです。放射能という見えない雲が人々の生活やふるさとを破壊し、家族を引き離し、人生をも狂わせてしまいます。国をも滅ぼしかねない原発と核燃料サイクルという巨大システムを終焉し、新しいエネルギーシステムの早急な構築を願うばかりです。

\*（いのうえ まこと あつぎ環境市民の会副代表 厚木市上荻野在住）



ロビーにモニターを設置

寒い中、開演を待つ長い行列が出来た



# 美しいふるさとを子どもたちへ いま私たちに何ができるか

## 小出裕章講演会ダイジェスト

於：2013年2月23日 厚木市文化会館大ホール

### I、はじめに

この大勢な人たち、私はびっくりしました。これも福島原発事故があったからでしょう。まもなくあれから2年、その多くは忘れられてしまっているのです。それなのにこんなに多くの人たちがお見えになられていること、私は嬉しいです。時間を戻すことはできません。みなさんに是非、私の話を聞いてほしいのです。

話したいことは3つです。それは私たちの命、原子力発電、そしてこれからどうするかです。



### II、この地球と人類

この広大な宇宙にこの美しい星、地球は浮かんでいるのです。この星、最初は火の玉でした。

それは時間とともに徐々に冷えていきました。それは48億年も前のことでした。そして生命の発生、絶滅、それを繰り返しながら今日のような地球となったのです。

それでは人類はいつ生まれたのでしょうか。人類の誕生、それは400万年くらい前いわれています。そして、この人類、10万年位前に道具を使い、狩りをするようになったのです。そして1万年前、農業をするようになりました。この頃には集落が作られるようになったのです。人は狩り、農耕を経て、エネルギーを使うことを覚えました。以来、人類はエネルギーを使用してきたのですが、それは微々たるものでした。それが1800年代の産業革命でエネルギーの使用は爆発的に増加するのです。

地球誕生は46億年前のことでした。人類の誕生は400万年前のことでした。地球誕生の46億年前を460kmとします。すると人類誕生の400万年前は400m、そして産業革命の200年前は2cmとなるのです。

### III、人類のからだと放射能

ここ100年、地球環境は大きく変わっております。そしてこの時代、何か人類の絶滅を感じてなりません。人の命、体、そしてそれを成しているもの、それは細胞なのです。人の体は60兆の細胞からなっているのです。そしてそれらは同一のDNAの細胞からなっているのです。細胞は常に分裂を繰り返します。そこには遺伝情報がすべて書き込まれているのです。DNA、それは2重のらせん構造になっています。それを直径0.2mmと仮定するとなんと130kmとなるのです。

ここにきて人類は放射能を使うようになりました。エックス線のエネルギーは巨大です。そして放射能は巨大な破壊力を有します。それはDNAを簡単に切断するのです。これについて、学問の権威ある機関、BEIR-VIIの報告、ICRP（国際放射線防護委員会）2007の勧告では、放射能の限界を100mSv（シーベルト）以下とするリスクの根拠を示しております。

### IV、私が原子力に取り組むことになったこと

私は大学では原子力学科を選びました。いずれ石炭はなくなる。原子力こそ人類生存上不可欠のものと考えたのです。当時、私はこう信じました。当時のある専門の団体ではウランについて、



広島原発で出された放射能は 800 g のウラン、これに対し 1 つの原子力発電所で 1 年間に出来る放射能は 1 t のウランということでした。大学で私はこう学習したのです。

私は、これは大変なことだと思いました。こうして私は原子力のことを学び、そしてその危険性に気づき、これを広く訴え続けることになったのです。

V、いよいよ福島原発のことに触れることにします

福島原発、3/11 事故。1～3号機は運転中でした。4号機は定期点検中でした。そして原爆 10,000 発分相当のウランが別に保管されておりました。そして事故、送電線は不通となりました。非常用ディーゼル発電は全面停止となりました。格納容器は溶け、プールを冷却することで精いっぱいとなりました。汚染水は溢れ出ることとなりました。4号機炉は水素を発生し続けるのです。これを冷やし続けることが必要なのです。そして使用済みの燃料、これを取り出すには 100t クレーンが必要なのです。



これに関し、IAEA（国際原子力機関）会議で日本政府は、放出したセシウム 137 の量、これは広島原爆 168 発分に相当すると報告しました。これにより、汚染された 30km の地域は自主避難地域となりました。これは琵琶湖の 1.5 倍に相当する地域なのです。そして汚染は飯館村へ…… その影響は、福島中通り、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、山形県と広がっていったのです。

原発現場での作業は 20 Sv（シーベルト）の中で行われているのです。東電、政府はそれを我慢しろというのです。放射能管理区域は 1m<sup>2</sup>あたり 40,000 Bq（ベクレル）のところなのです。管理区域から出てはいけないうし、出られないものです。死んだ人はいないというけれど、人は次々と死んでいるのです。1つの病院で 45 人ものが亡くなったのです。牛馬もその多くが死んでいるのです。これでは政府が殺りくしているといいたくなるのです。

東電、政府の責任はどうなっているのでしょうか。これでは、日本がはたして法治国家なのか、疑いたくなります。法律では物の持ち出しについて、40,000 Bq 以上では持ち出してはならないと規定しています。政府はこれに違反して自らやっているのです。

被害は大きく広がっています。失われる大地、強いられる破壊、崩壊する 1 次産業、崩壊する生活、恥ずかしいことです。東電は責任を取ろうとしないのです。国はそれが国家のためと東電を教育しているのかと疑ってしまうのです。

変わってしまった世界、土地、食べ物、下水、それらを放射線物質と呼びかねないものにしてしまったのです。これは被爆による健康被害、被爆による生活の崩壊なのです。

## VI、むすび

私の願いは子供たちを守ることです。

1 万人、シーベルト当たりのガン死数、全年齢での平均では 3,731 人なのに対し、0 歳児では 15,152 人なのです。

地下に眠る世界の資源、究極埋蔵量、確認埋蔵量、石炭が圧倒的に多いのです。石炭をはじめとする各資源、各種発電の状況を見ても原子力は即刻廃絶できるのです。しかし、これも有限です。いずれ太陽のエネルギーに頼るしかないのです。それには人々の意識を変え、そして社会構造を変えていくこと、これが必要なのです。子供たちを被爆させない、子供たちを守る、これが私の願いです。

（文責 山中延明）

小出裕章 講演会

アンケート集計

\*観客動員数 1,250人 アンケート回収枚数 382枚 (回収率 31%)

1. 性別、年齢をお聞かせください。

性別	・男性	116名 (37%)	年齢	10代	6名 (2%)
	・女性	194名 (63%)		20代	11名 (3%)
				30代	54名 (14%)
				40代	67名 (18%)
				50代	86名 (23%)
				60代以上	153名 (40%)

2. お住まいはどちらですか？

- ・厚木市内 166名 (43%)
- ・厚木市外 218名 (57%)
- 県外 ・東京 13名 ・静岡 2名
- 県内 ・海老名 29名 ・伊勢原 23名 ・相模原 21名 ・横浜 20名 ・座間 19名
- ・秦野 17名 ・大和 15名 ・平塚 11名 等々

3. この講演会を何でお知りになりましたか？

- ① 知人の紹介・薦め 185名 (46%)
- ② インターネット 42名 (11%)
- ③ 新聞・情報誌 26名 (6%)
- 広報あつぎ 10名、東京新聞、タウンニュース、朝日新聞、週刊金曜日 等
- ④ ポスター・チラシ 95名 (24%)
- 有隣堂 24名、晴れ屋 12名、夢未市、文化会館、ラリチュッタ、集会 等
- ⑤その他 51名 (13%)
- 生活クラブ、いりょう生協、九条の会、やまゆり生協、チェルノブイリハート上映会 等

4. 小出裕章氏の講演の感想はいかがでしたか？

- ①とてもよかった。 301名 (82%)
- ②よかった。 60名 (16%)
- ③期待したほどではなかった。 3名 (1%)
- ④その他 2名 (1%) \*その他の意見は質問6に記載しました。

5. 小出裕章氏のお話を家族、知人、友人に伝えようと思いますか？

- ①強く思う。 244名 (66%)
- ②思う。 114名 (31%)
- ③伝えにくい 8名 (2%)
- ④つたえるつもりはない。 2名 (1%)

6. その他の感想、印象に残ったこと、以後企画してほしいこと等、ご自由にお書き下さい。  
(別途集計しています。詳細は事務局までお問い合わせください)

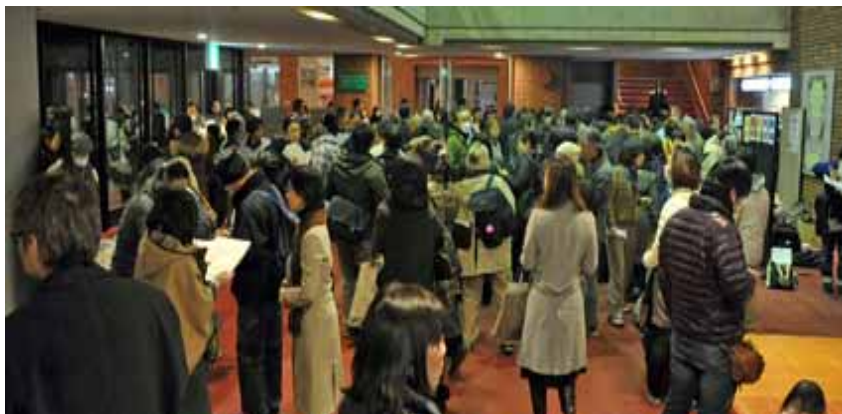
(事務局 仏淵 恵)

## 小出裕章氏講演会の開催に関わって

### 原発依存に不安の人、多いと感じる

山本智子\*

3.11から1年半が過ぎ、大飯原発の稼働と共に福島事故の報道が少なくなったと感じていた頃、小出裕章氏の講演会を厚木で開催するとの話を聞きました。それまでも県内での講演はありましたが都合がつかず、本を読むことで埋め合わせとしていた自分にとって期待値の高いイベントとなりました。



混雑するロビー。講演の期待値が膨らむ

さて日時は決まったものの、厚木市文化会館の大ホールを埋める事の難しさを考えると準備のための時間

は多いとは言えませんでした。知り合いにチラシを渡し、頭を下げて廻り、人が集まる場では話をしてお願ひする…この繰り返しの中で、表立っては言わないけれどやはり原発に依存する事への不安を持つ人は多いと感じたことは確かでした。

当日、私の担当はチケット販売でした。直接会場内の様子を見たのは講演が始まってからでしたが、ほぼ満席にも関わらず静かに真剣に聞き入る皆さんの姿に妙に感動しました。「まだ間に合いますか？」と小走りに当日券を購入された幾人もの姿も思い出されます。

この講演の事をFBでアップした時、ある方が「…少数意見の学者の話聞くために、文化会館の大ホールが満員になるなんてこと…」と書き込みされていました。確かにそうかもしれませんが、これまでの数々の報道に偏りを感じた市民は直接の言葉・考えを聞くためにこの講演会を選んで参加してくれたのであり、そこに開催の価値は高いと思いました。

事故から2年が過ぎ、福島原発の汚染水の漏水問題が発覚し、いまだに何も解決していないと証明されているにも関わらず原発推進の方向は変わっていません。一方で今年の夏の電力事情は計画的な節電の設定をしなくても乗り切れるとのニュースもあります。無くてもいい原発に拘る理由を明確に説明できるのは誰でしょう。福島から学んだことはとても沢山あるはずですが、日本に限らず原発の使用済み燃料の処理はこれからの世代への負の遺産となることは確実です。子どもたちに豊かな環境を残すことがどれほど難しいことであっても、そのために責任を取るのには私たちだと強く感じています。

\* (やまもと ともこ あつぎ環境市民の会 厚木市在住)

#### みんなの環境 第34号 2013年4月20日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子 / 制作 長岡恂  
電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp  
事務局 〒243-0122 厚木市森の里 3-4-3 鷺谷雅敏方  
e-mail: pxa05613@nifty.com  
郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A 会員:2000円 B 会員:1000円)

(C) あつぎ環境市民の会 2013